

3月のほけんだより

平成30年 第208号

呉市役所
子育て施設課
0823-25-3144

子どもに多い耳の病気は？

子どもは、風邪をひいたときなどに、耳の病気を併発することがあります。年齢が低いほど、症状があってもうまく伝えられない場合が多く、大人が気づきにくいことがあるので注意が必要です。

子どもに多い中耳炎！子どもにこんな様子はありませんか？



耳が痛い！



耳だれ

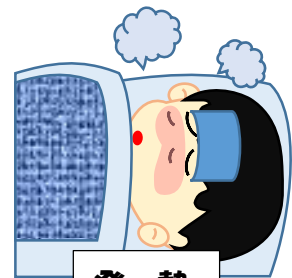


耳をよくいじる



聴こえが悪い！

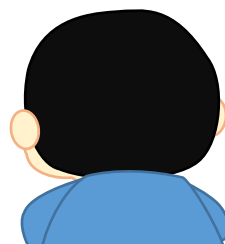
機嫌がずっと悪い、耳をよく触るなど、耳の病気のサインかもしれません。あれ？と思ったら耳鼻科を受診してみましよう。



発熱



機嫌が悪い



呼んでも気づかない

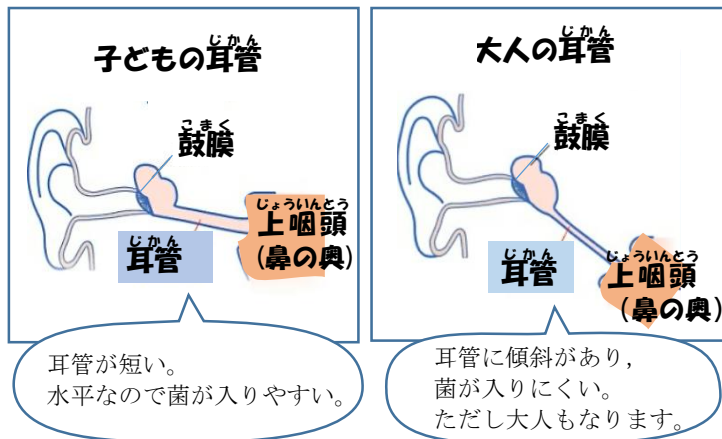
〇〇 ちゃ～ん

子どもに多い、急性中耳炎としん出性中耳炎について

急性中耳炎って？

～原因～

感冒に伴って、鼻の奥と耳をつなぐ耳管を伝わって、ウィルスや細菌が鼓膜の奥に入ることが原因で起こります。小さな子どもは、耳管が短く、咽頭に対してほぼ水平に近い角度にあるため、菌が中耳に入りやすく、急性中耳炎になりやすいのです。



～症状～

耳の痛み・耳だれ・発熱・聴こえが悪い

～治療方法～

痛み止めや抗菌剤などのお薬と、場合によっては、鼓膜を切って痛みや熱を和らげることもあります。鼻水をこまめに吸ってあげることも効果的です。

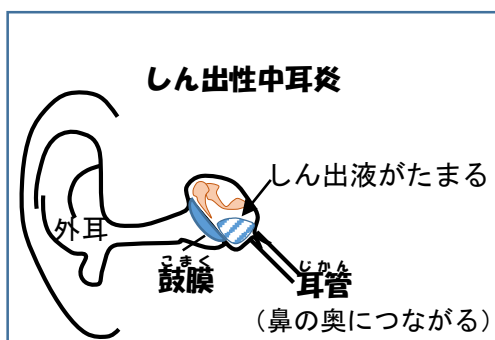
治るまで1～2週間ほどかかりますが、もっと長引く場合もあります。

しん出性中耳炎って？

～原因～

耳管の機能が悪いために、中耳に液がたまります。

急性中耳炎に引き続いて起こることが多いのですが、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、アデノイドが原因になることもあります。



～症状～

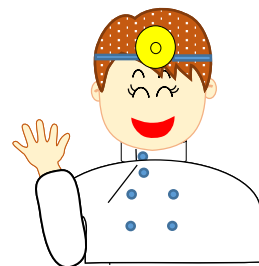
発熱や痛みはほとんどありませんが、液がたまるため、耳が詰まった感じや耳鳴り、難聴を引き起こします。

子どもはなかなか自分で症状を訴えてくれません。注意して観察しないとわかりにくいことがあります。呼びかけても振り返らない、テレビの音が大きい、ことばの発音がおそいなどで気づくこともあります。

～治療方法～

薬による治療で治ることもありますが、治らない場合には、鼓膜を切開して中耳にたまっている液を抜きます。場合によって、そこに小さなチューブを入れることもあります。また、鼻やのどなど、全体的な治療が必要です。

成長とともに良くなることが多いのですが、大人になっても引きずる人もいますので、ケアが大切です。



ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>